
特 許

シーメンス式新型電話設備用選擇子

(特許第七八一四一號)

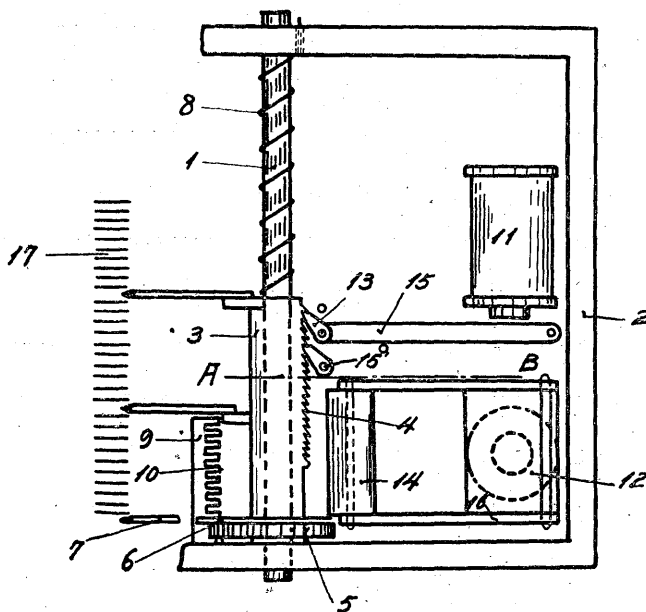
從來の諸種の電話設備用選擇子よりも特に構造簡單で可動部分の少ないシーメンス新型電話設備用選擇子が考案せられた。

この新型選擇子の構造の特徴とする所は、接觸腕が縦方向に廻轉運動が出来る様に軸に支持され、且此接觸腕は支持體を調整することに依りて選擇子の固定接觸部と接觸することである。この新型選擇子が從來のものと相違する點は、即ち軸に可調整的に配置された接觸腕支持體は扨上鈎子及び廻轉鈎子と繋合する爲に齒を具へ従つて容易に監視され且可動部分が最小數なために構造簡單で作働が確實な點である。この選擇子は廻轉運動が開始の後支持體に配置された門體は接觸腕の支持體を各扨上位置に固定し或は此の位置に持行くに役立ち同時に廻轉運動の制限の爲にも役立つ。支持體は一個の撥條の作用を以て解放される。此の撥條は重力の作用の下に上位置から下位へ支持體の復歸する事を確實にし且休止位置へ復歸廻轉をする事を助ける。故に從來の装置の様に復歸磁石を使用せずに接觸腕の矩形運動が達せられる。

以下圖面についてこの選擇子の構造を説明しよう。全然固定され或は又可廻轉的にも作り得る選擇子軸(1)の兩端は磁石及接極子を固定するに役立つ所の杵(2)中に支持される。軸(1)には縦齒(4)を具へた支持體(3)が弛く押上げられる。廻轉齒は支持體(3)の下部に固定された齒輪(5)として造られて居る。齒輪(5)上には常に支持體(3)上に固定された盤(6)が有る齒輪(5)の代りに同軸廻轉齒を直接に支持體(3)の周圍に具へられる。此の支持體(3)には更に接觸腕(7)が取付けられて居て之を経て接觸子片の固定接觸部と連結される様になつてゐる。縦及廻轉方向に於て支持體上に作用する撥條(8)は支持體(3)を休止位置に保ち且調整された支持體を其の作働位置から休止位置に戻す役をする。支持體(3)の盤(6)は選擇子杵(2)に固定された櫛狀部(9)と共働する。櫛狀部(9)には支持體(3)の扨上齒(4)の齒數に相應して相重ねて配置された缺截(10)が有る。従つて支持體(3)は廻轉運動中は各扨上位置に於て相應した缺截中に繋合した盤(6)を以て保持される。支持體(3)は扨上磁石(11)及廻轉磁石(12)の作用で磁石と共働する接極子(15)、(16)の作働鈎子(13)及び(14)に依りて調整される。作働鈎子(14)と共働する支持體(3)の廻轉齒輪(5)は扨上運動をする際に一緒に持行かれる爲に之れに附屬の鈎子(14')及(14'')は全扨上範圍に於て廻轉齒(5)と繋合し得るだけ廣く作ら

れてゐる。齒輪の代りに廻轉齒を直接に支持體上に作ることも出来る。

選擇子の作用は、休止位置では齒輪 (5) は其の作働鈎子 (14) 及び門鈎子 (14') の範圍外にあつて盤 (6) は此の位置に於て扛上運動の行はれてる間其の突端 (18) を橢狀部 (9) とを繋合させる位置にある。若し選擇子が圓錐形固定接觸部 (17) の定接觸上で調整されると支持體 (3) は扛上磁石 (11) の作用に相應し接極子 (15) 及び縦齒 (4) 中に繋合した扛上鈎子 (13) を以て軸 (1) 上を一步一步と扛上され、此際に門鈎子 (15') で保持される。尙此時支持體 (3) の接觸棒 (7) は共に扛上され扛上磁石 (11) が減磁した後固定接觸子片 (17) の接觸列前に靜止する。此際盤 (6) 及び廻轉齒輪 (5) は一緒に扛上するが、支持體 (3) は廻轉齒輪 (5) の齒に相對向した廻轉磁石 (12) の門鈎子 (14') の爲廻轉されない。今此の磁石が更に勵磁されると、磁石は接極子 (16) 作働鈎子 (14) の作用で廻轉齒輪 (5) を更に一步一步と廻轉する。盤 (6) の尖端



新型選擇子の正面圖(一)

(18) は橢狀部 (9) の缺截中に動いて支持體 (3) を扛上位置中に保持する。尙此際接觸腕 (7) は固定接觸子片 (17) の接觸部と接觸する。以上の如くして接觸腕が所要の連結を終れば廻轉磁石 (12) は公知の方法を以て連結が解放される迄減磁される。

所要の連結が終れば、支持體 (3) は同一方向に一步一步と廻轉して以て解放される。之れが爲盤 (6) の突端 (18) は再び縦缺截 (10) より外れ、同時に廻轉磁石 (12) は減磁され、從つて支持體 (3) は自重の爲めと扛上過程の際壓縮された撥條 (8) の作用との爲に其の最深部に落下する。此の時支持體 (3) は廻轉磁石 (12) の門鈎子 (14) に設けられた齒と一緒に此の鈎子に沿ふ



＊本誌に記載されている会社名および製品名は，それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。